校友時報

昭和40年12月2日
編集人兼發行所
秋田県能代市高町迫分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

部説 〝俺達の生徒会なんだ〟

生徒会活動は年々反応だった。生徒会長の呼びかけにもかかわらず第二回雑談会も企画部員だけの談合の場に化してしまった。もっとも「雑談会」そのものに問題がなかったわけではない。それはその名の持っている気楽さとほうらはらにエリート達が集まってこれからは生徒会をどのような方法で導いてやろうか相談しているような会だった。「雑談会」の意味が生徒の和を作ることである限り、それは企画部主催公聴会であってはならないし、生徒会最高作戦会議であるべきでない。しかし、それにもまして驚いたのは生徒の関心さだった。宣伝は結構行き届いていたし、生徒会長の呼びかけは一、二年生大部分の耳に入っていたはずなのに相変らず生徒は無表情だった。おそらく生徒会幹部連もこれからの活動の困難さを改めて認識したであろう。最初につまずきはじめたこの生徒会活動はそこに停まることはできない。すでに第二の第三の運動が準備されているのである。ここでもっと重要なこと、それは生徒各自の意識を盛り上げる為になされている非常な努力の意味を生徒自身が知ることである。それを知った時もう無関心でなどいられるはずがない。

ここ数年来能代高等生徒会は危機が続いている。言える。それを追い払うものは一つの目的に向おうとする生徒全体の強い意志と、それをまとめていく指導者であることはいうまでもない。そしてこのうちさらに必要なものが生徒の意識であることはさらに言うまでもないことである。

能代高校における生徒会の最大の行事は九月の能高祭である。前期生徒会はこれを最極目標として生徒の力を結集しようとする。しかし後期生徒会はそのようにはっきりと定まった目標も、大きな行事も持たない。その持つ意義は一口に前期生徒会までに生徒の生徒会に関しうる意識を高めることにあると言える。言わばき役的存在。あり、えんの下の力持ち的存在である。それだけに重要、かつ困難な役割なのである。

後期生徒会は活動を開始した。その最初の試みが生徒会主催の「雑談会」であった。その趣旨はもちろん生徒間に「俺達の生徒会なんだ」という意識を植えつけようというものだったが、そこにあるものは全たく無

動きだした生徒会

▽十月十八日の投票で総会議長に大久保博司、副議長に鈴木長十郎、そのほか三名の△

▽会計監査委員などそれぞれの役員が選出された。△

▽こうして発足した伊東恭悟新会長をはじめとする後期生徒会は今まで不振状態であ△

▽っただ徒会をこれから大いに盛り上げようと、生徒の意見や要望をとり入れるため△

▽座談会を生徒委員会、そして新しい試みである広報部などを設ける予定など、金曜△

▽生徒にもっと生徒会に関心をもつようにとよびかけるなどに活動を開始している△

去る十月十二日の生徒会長、副会長の選挙で会長に伊東恭悟君（二C）、副会長に大塚健三君（一B）がそれぞれ選出された（既報）。また十月十八日に総会議長ならびに副議長、監査委員が信任投票によって選ばれ、その他の各役員は会長の任命によって選出された。こうして全役員もきまり、伊東新会長を中心とする後期生徒会の活動がはじまった。その第一回目の試みとして十月二十五日の放課後に「座談会」を一Dで開いた。これは今まで全校生徒が生徒会に全然無関心である、ということをできるだけ解消するために開かれたもので、特に一年生の諸君の出席をのぞんだが、その期待に反して出席者はきわめて少数であった。これではいけないとおもい翌二十六日の放課後に、二年生全員を体育館に集めてできるだけ生徒会に協力するようよびかけるとともに座談会を開く必要性を訴えた。しかしその訴えもむなしく、二十七日の会にもほとんど出席者がいなかったので少数だけで「生徒会に関心を」のスローガンをとのように実行するかについて話し合った結果、ロングホームルームの使い方を考えることがあげられた。また後期生徒会の最初の行事として秋季校内体育大会が十一月二十二日一日を費して盛大におこなわれたが、その計画の審議のため十一月十二日に企画部会を物理室で開き原案をつくり、翌十三日に第一回生徒委員会を視聴覚室で一時より開き、意見をかわした。しかしこの会もやはり可決に必要な全生徒委員の三分の二そこそこの出席しか得られなかった。こういった事実はクラスの代表である生徒委員までも、生徒会というものに対して関心が薄いということを示している。こういうことをなくし、関心を盛り上げるために生徒会は新しい試みとして広報部を設けて月に一回、生徒会報を発刊する予定だこのこと、内容はもちろん生徒会の活動ぶりを報告し、関心を盛り上げようとするものである。このような現状に立たされている会長ならびに各役員は「生徒会に関心を」、これを後期の最大の目標としてこれから大いに活動するとともに、全校生徒が広目で生徒会というものに関心をむけてほしいの一言である。「なせば成る」の精神が生徒間に芽えることだろう。しかしその陰には非協力的な生徒もいたことを忘れてはならない。そして来年の文化祭に今年の成功をどう反映させるべきか大きな問題であろう。

「勉学の秋」の名のとおりか終外テストが多彩に行なわれた。旺文

◇総会副議長　大久保博司（二B）
　信任一七四七票
　鈴木長十郎（二C）
◇会計監査委員
　成田敬一（二D）　五七四票
　滝田正裕（二E）　七三九票
　高田次男（二F）　六三〇票
◇委員会議長　佐藤了（二C）
　副議長　山谷仁（二A）
◇選挙管理委員長
　長谷川基（二C）
◇企画部長　石郷岡一男（二C）

去る十月十八日に生徒総会議長ならびに副議長三名の会計監査委員の投票がおこなわれた。

議長、副議長ならびに後期生徒会のおおた役員はつぎの通り。

◇総会議長　信任一六九四票

生徒会新役員

多彩な行事
二学期をふりかえって

文化祭という一言につきたこの二学期。本校四十周年記念という最大の目的を持って是非とも成功させようと二学期から生徒会を中心に全校にそのムードは作り上げられた。前夜祭を初めとして展示演劇、ブラスバンド等たたすばらしい一言である。「なせば成る」の精神が生徒間に芽えることだろう。しかしその陰には非協力的な生徒もいたことを忘れてはならない。そして来年の文化祭に今年の成功をどう反映させるべきか大きな問題であろう。

『巨濤編集始まる』

「巨濤」第八号の編集が始まった。同誌は生徒機関紙で、毎年三月三年生の卒業記念に発行されている。第一回巨濤編集会議は十一月二十四日、物理室に企画部員が集まり開かれた。この席上、生徒会長より編集長に八代啓一君（二G）が任命され、編集計画、編集内容について話し合われた。また編集委員は企画部員と二、三年の各クラスより一名選挙員を選ぶ事が決められた。

さて、八代編集長は編集会議の後次の様一述べた。

「今回の巨濤は例年と特に変わった点はないが、卒業生一人一言は低俗になっていく傾向なので一考を要する。また〝四十周年をふり返ってみよう〟という企画や、現代高校の諸問題深求という様な物を計画している。」

今年の巨濤編集開始は例年より二十日近く遅れたが、新鮮、充実した巨濤をモットーに取材、編集に努力してもらいたい。

時評

素粒子論概観

平野忠夫

自然界には実に多種多様な性質を有する物質が数多く存在する。然し随分古い時代からこれらの物質は数種の基礎的な物から構成されているのではなかろうかという考え方があって、これから発展したのがいわゆる原子論である。物質を細分して到達した究極の基礎粒子にギリシヤ語で不分割を意味するアトモスという語からとって、アトン（原子）と名づけた裏にはこの粒子自体は構造を持たないものという考えのあったのは当然の事である。ところが衆知の如く原子は更に原子核と外殻電子から構成されている事が判明し、その核はまたもっと基礎的な粒子から出来ていて、今ではその粒子の種類は三〇種にも及ぶ事が知られている。素粒子というのはこれ等基礎粒子の総称で二〇核内粒子に関する理論を素粒子論と言っている訳である。

素粒子の中でポピュラーなのは陽子、中性子、核内電子等で我々日本人にとっては更に湯川秀樹の中間子がある。中間子は核内の陽子と中性子との核力機構の理論を進めて行く過程に於て存在を予言され、その後すべアンダーソンによって宇宙線中で確認されたものであるが、この湯川秀樹の提唱した中間子論はその後の素粒子論の飛躍的発展に偉大な貢献をした功績によりノーベル物理学賞を受けた。

秋京都を中心会場として素提唱三〇周年に当たるこれを記念しこの、国際会議が開かれ世界の素粒子論者が一堂に会したのであるが、まさにタイミングよろしく同じく素粒子論学の朝永博士がノーベル賞を受賞する事となり、益々日本は世界の素粒子論者のメッカである感を深くし次第である。科学の発展形態には自然現象が理論的に解明されて行く型と、理論が先行して実験による確認が後になる型とがあるが、素粒子の発展型とは、素粒子の発見史を見るといずれも理論が先行している事に気付く。つまり素粒子論の世界は独創的な理論によって開発されて来た訳だ。アインシュタインは二五才、湯川秀樹は二八才を後世に残る理論を提唱した。独創的な仕事は一般に非常に若い時になされるものらしい。それに湯川、朝永両博士が共に京都で学んだ人達であるこの点が我々に感じさせるものがあるような気がする。

物質の真の究極の基礎粒子が一体何なのかを探求、続けて来た素粒子論者にとって、現代は迷いの時期である。言われている。即ち発見された数多くの素粒子間に於て、より要素となり得るのはどれなのか、或いは未発見になっているかも知れない粒子がもっと基礎粒子なのではないかという点である。然しやがてこれらの停滞状態は、科学に立脚した深い哲学的思索を通して独創性豊かな次代の若い頭脳により解明され打破されるであろう事は間違いない。

（理科担当）

学生のみせ
キムラヤ
はたまち 2－5535

レコード・楽器
○ヒット曲，新譜，強力盤豊富に取り揃えてあります。
○レコードのことならなんでも相談ください。
○レコードは各社特約の専門店より。
Xマスレコード多量入荷
ベンチャーズ　Xマスレコード
特約店
名曲堂
柳町 T 2—5808

ケーキの王様
バーム
クーヘン
セキト
上町 T 2—5136

金物をハント
能久金物店
万町 T 2—5344

OPT　PEN
カモヤ
畠町 T 2—3740

章月
駅前大栄百貨店
T 2—3844
中和通り T 2—4808

レコード
アサヒ楽器店
各種楽器
畠町
T 2—2275

新聞週間語
新聞選標
新聞の
守る和
平の
気で
勇世界